

「風速」

速さとは、動いている物体が一定時間あたりに進む距離のことをさす。したがって
(平均の速さ) = (移動距離) ÷ (経過時間) で求めることができる。経過時間を短くすれば、その瞬間の速さを求めることができる。速さには秒速、分速、時速といった単位が用いられる。わかりやすい数字でいうと、秒速10 mは分速に直すと60倍で分速600 m、さらに60倍で時速36 kmになる。

人の歩く速度は、だいたい1時間に5 kmといわれている。ゆっくり歩けば時速4 km、かなり急ぎ足をすれば時速6 kmになる。人が走ったときの速さはどうか。オリンピックに出場する選手は100 mを10秒で走るから、平均すると秒速10 m、時速では36 kmである。自転車でかなり思いきりこいだ時の速さである。中学生では50 mを走ると平均8秒前後だから、秒速6 mほど、時速では約21 kmである。マラソンランナーは5 kmごとのラップが15分ほど。時速に直すと20 kmとなり、中学生が全力で走っているのとほぼ同じだ。

今回、九州を襲った台風10号は、当初、最大瞬間風速80 mになるのではと、心配された。それでも各地で風速40 mを超える暴風が観測された。風速は風が流れる秒速だから、無風の状態で、その速さの乗り物に乗っていて受ける風と同じと考えられる。風速40 mは時速144 km、在来線の特急並みで、京成スカイライナーの時速160 kmに近い。ちなみに、もし風速80 mだったら、新幹線に乗っていて、窓を開けて顔を出したときに受ける風となる。ただ新幹線の窓は開かない。

今年の台風では、千葉県市原市でゴルフ練習場の鉄塔が倒れた。風速が40 mを超えると破壊力が出てくる。強い風は危険だ。そして風で飛ばされてきたものに当たってしまう危険性さえある。足立区では、大雨警報で休校としないが、暴風警報が発令された場合は休校となる(朝6時の段階で判断)。大雨も怖いですが、暴風はもっと恐ろしい。風の強い日は不要不急の外出はしないようにしよう。

9月7日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 a、b、c、d、eはどれも0ではない整数で、次の5つの条件を満たす。

a、b、c、d、eはそれぞれ正の数か、負の数か答えなさい。

条件1 $c < a$

条件2 $d < e$

条件3 $b \times c < 0$

条件4 $a \times c < d$

条件5 $c \times d = b \times e$